



【研修報告】

令和3年度 第5回 在宅医療・介護関係者研修会を開催しました

諫早市在宅医療・介護連携支援センター(かけはしいさはや)

『アルコール関連問題と 高齢者の対応について』

令和4年2月28日(月)19時30分~21時

講師：福田 貴博 先生

あきやま病院 依存症病棟 医長



諫早市在宅ケアサークルと共催で、あきやま病院の福田貴博先生を講師にお迎えし、研修会を開催しました。オンライン開催で約80名の方にご参加いただきました。

福田先生のご講演では、依存症の根底に生きづらさがあることなど依存症の心理や、『ドリンク』の数え方など、新たに知る内容も含め、これからの支援に大変参考になるお話でした。

今回の研修では、事前にたくさんの質問をいただき、多くの方がアルコール関連の課題を抱えた患者・利用者の対応などに悩んでおられる現状がありました。支援を検討する時に、「誰のニーズなのか…」と、一旦立ち止まって考えることも必要なのかもしれない。

なかなか解決しない課題も多いですが、諫早市に相談ができる医療機関があることは、非常に心強く感じました。



参加者の感想(一部抜粋)

- ・肯定感のコミュニケーションスキルと誰のニーズなのか?この2点についてはアルコール依存症に限らず参考になりました。アルコール依存症はご本人の意思、ご家族の協力は必須と考えていましたが、支援側のスタンスでは進まず、困難事例の一つになりがちでした。支援策について振り返ってみようと思います。
- ・高齢者・認知になってからのアルコール問題対策ではなく、それ以前に早期発見・早期対応が重要だと理解できました。
- ・依存症対応で大事なことは、生きづらさに着目し解消方法を一緒に考えることだと学びました。その為にも専門機関へ繋げる事が大事だと思います。アプローチ方法も具体的に教えて頂き、ありがとうございました。
- ・とても苦勞するアルコール問題ですが、病気を知る事で支援の形が見えてきました。



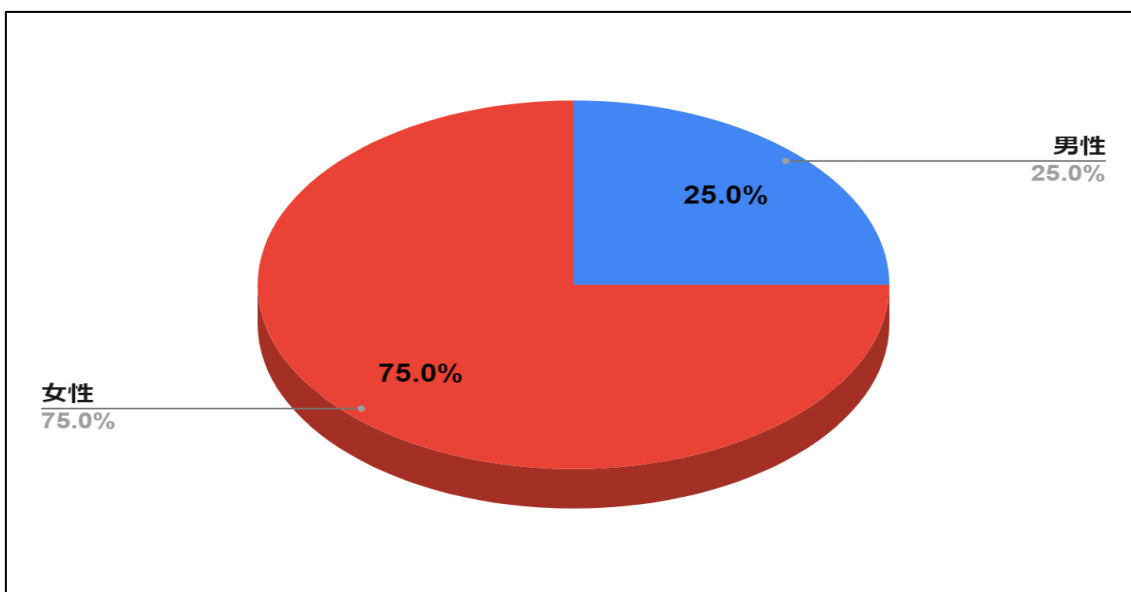
令和3年度 第5回在宅医療・介護関係者研修会（オンライン）

『アルコール関連問題と高齢者の対応について』アンケート結果

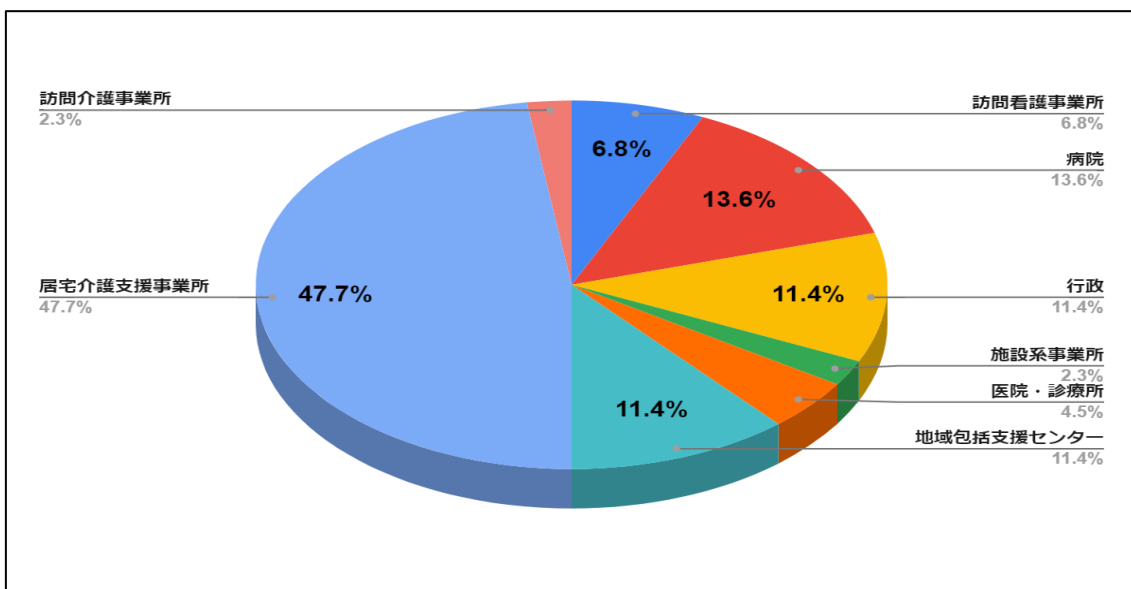


参加者約 80 名 回答者数：44 名

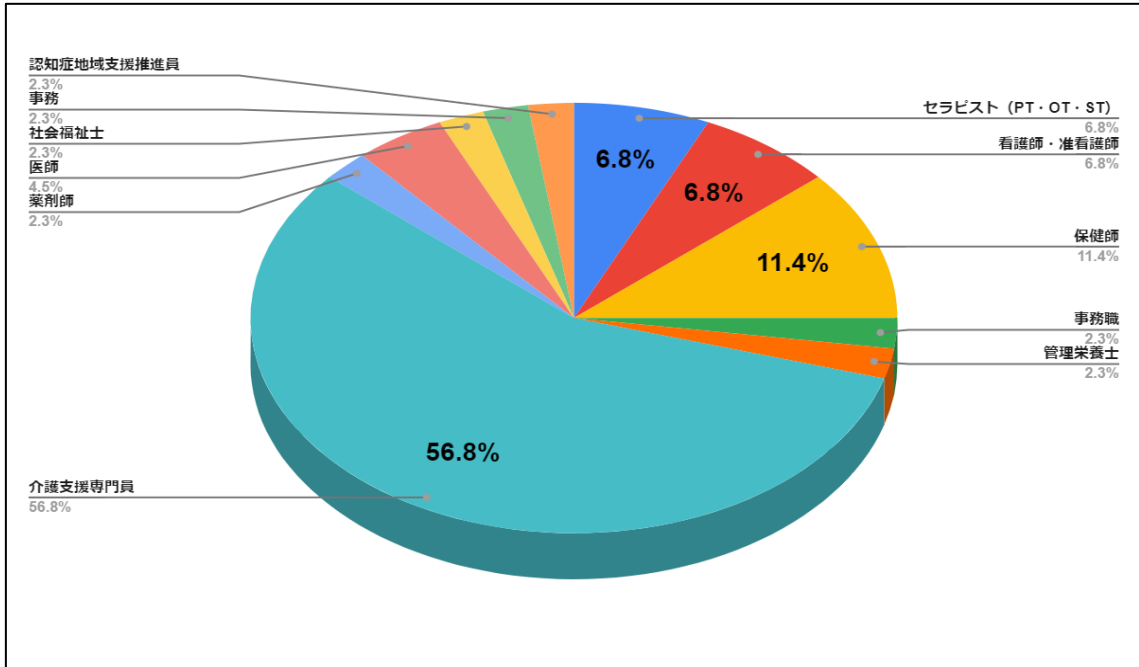
1. 性別（男性 11 名/女性 33 名）



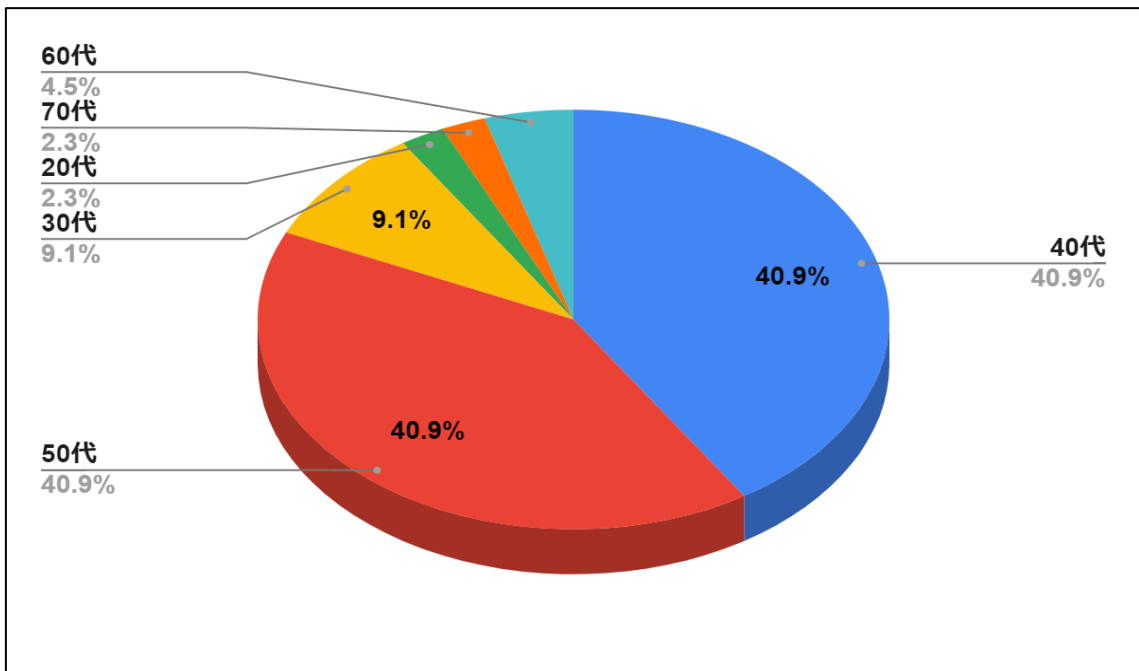
2. 所属



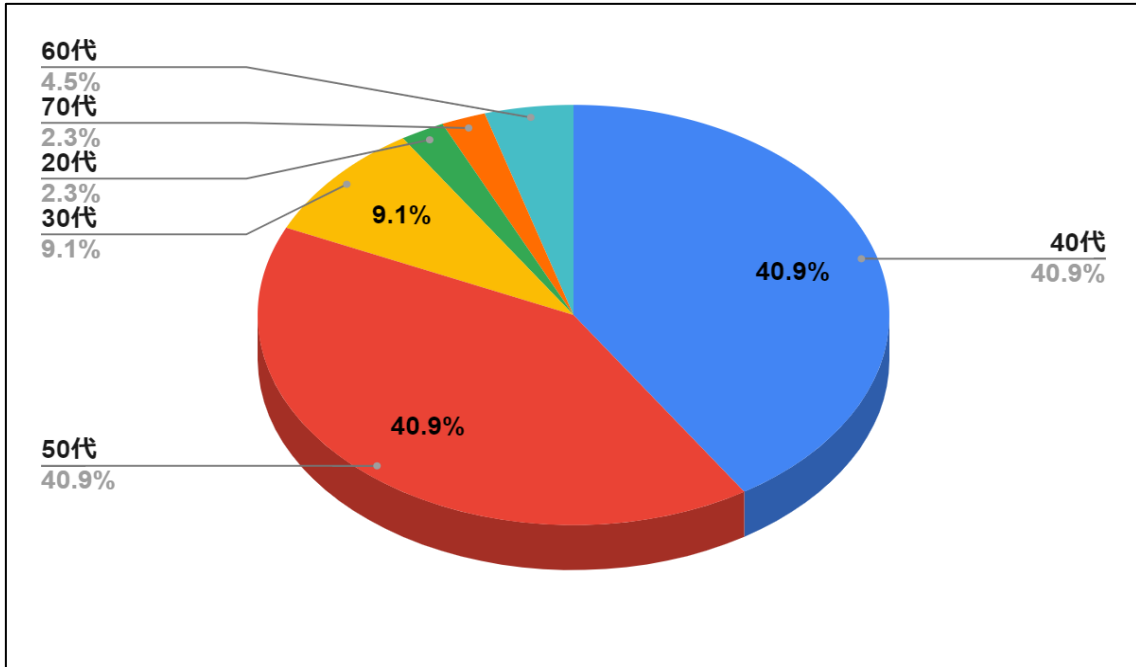
3. 職種



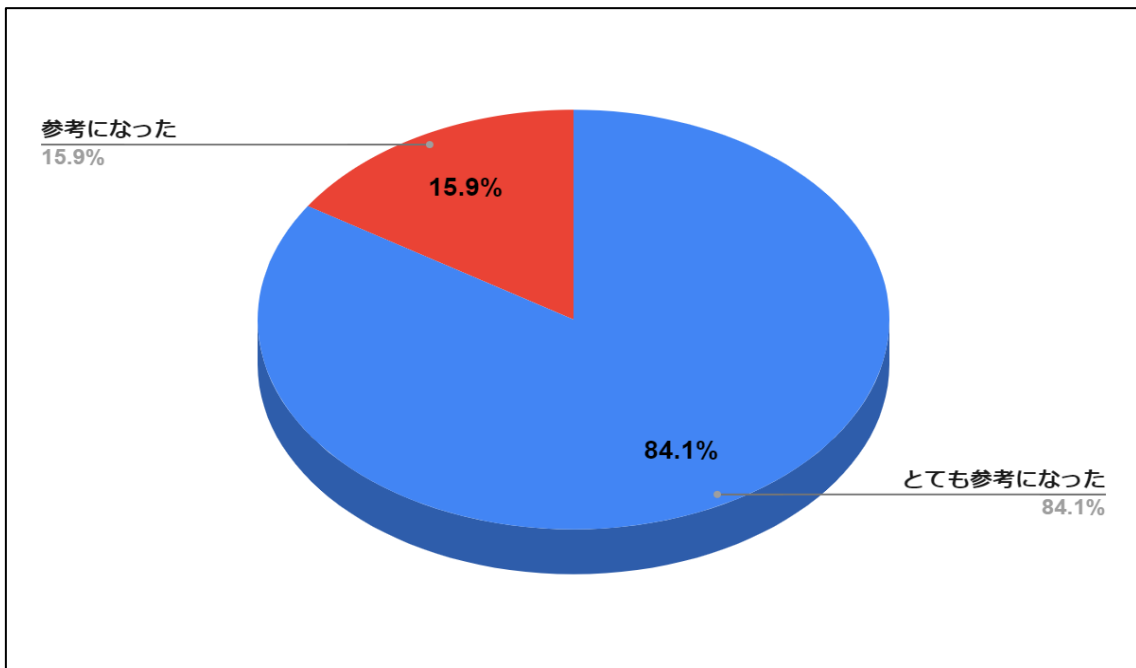
4. 年齢



5. 職場の経験年数



6. 本日の研修内容はいかがでしたか



7. 本日の研修の感想をご自由にお書きください。

- ・自分のケースと重ねて考えてみました。非常に勉強になりました。
- ・以前担当させていただいた方にアルコール依存症の方がいました。とても穏やかな紳士的な方でしたが、ご家族のアルコールに対する恐怖心の強さが印象的でした。施設に入所されていましたが、調理に使う日本酒やみりんも厨房に置かないでほしい。レクリエーションでの買い物も、もし、酒類が目についたら大変なので、連れて行かないで下さいと言われていました。ご本人だけではなく、ご家族のサポートが必要だと強く感じました。
- ・アルコールの依存性や Q&A での対応のしかたなど勉強になりました。研修に参加させて頂きありがとうございました。
- ・アルコール依存症の症状から被虐待、自傷行為と様々な問題が発生してくる。感情や考え、向き合い方を理解し接することにより安心できる生活へと繋がるのではないかと考える。更に、依存症の治療へとつなげる第一歩であると思いました。
- ・肯定感のコミュニケーションスキルと誰のニーズなのか?この2点についてはアルコール依存症に限らず参考になりました。アルコール依存症はご本人の意思、ご家族の協力は必須と考えていましたが、支援側のスタンスでは進まず、困難事例の一つになりがちでした。支援策について振り返ってみようと思います。
- ・アルコール依存の方への関わり方がよくわかった。機会があれば事例検討や地域ケア会議で実際の事例について検討をお願いしたいと思いました。
- ・アルコール依存症の早期の受診に繋げるためには、条件のハードルを下げて提案声掛けすることの大切さがわかった。また関わり方では「アイメッセージ」を心がけ肯定的なコミュニケーションが有効だとわかった。ケアマネ業務でも活かしていきたい。
- ・アルコール依存の治療は本人、家族のニーズがあって行うものと聞き、その通りだと思いました。ご本人、家族の思いをしっかり聞き、今回の研修で学んだ事、情報はしっかりとお伝えしていきたいです。
- ・わかりやすい講義内容でした。講義内容も目から鱗状態で、今まで思っていた事が、実際は間違った知識だと知り、今回受講して良かったと思いました。早速、明日職場で知り得た内容を披露したいと思います。

- ・高齢者を支援する中で病気の悪化や転倒などあり「お酒はやめましょう」と声をかけ、「私の楽しみだから酒をやめろとは言わないで」と言われていた。高齢でもあり楽しみを奪うのはかわいそうと葛藤があったが、休肝日を作る・飲酒量を減らす等声掛けによりストレスを少なくして飲酒量を減らせるような支援を行っていきたい お酒の目安やビール 500mlでも依存症の恐れがある事を知り今後の生活の中で自分や身近な人にも伝えていきたい。
- ・研修に参加させて頂き、ありがとうございました。資料も分かりやすく、イメージしやすい内容で、今後の支援に参考になります。飲酒、依存症にメカニズムがわかったので、利用者理解を深められると思います。生きづらさを理解した上で、関係性を築けるように取り組みます。ありがとうございました。
- ・アルコール依存症の方が増えてきて対応にすごく悩むところが多かったのですが、研修を受け少し促し方などヒントを得ることが出来たような気がします
- ・基本的なところから対処法まで、とても勉強になりました。数え方「ドリンク」は利用者だけではなく家族や自分の周りにいる人たちにも、教えようと思います。
- ・予後の悪いアルコール依存症ですが、いかに初期の段階で専門医につなげるかが重要で、そのために最初は家族からだけでも受診はいい、と意見をきけて、敷居の下がる思いがしました。またアルコール依存症には、根底に生きづらさがある、とのこと。ただアルコールを断つだけでなく、根底の生きづらさとの意折り合いをつけていくことも大事で、これはアルコールに限らず、依存症には共通するものだと勉強になりました。
- ・アルコール依存症について、分かり易い説明で理解できました。アルコール依存症の方への関わり方等、改めて考える機会になりました。適度な飲酒、それを超える飲酒の習慣がある方の場合、早めの受診に繋げる事が大切な事が分かりました。若い頃からの飲酒で、肝硬変の治療を続けている高齢者がいます。余命を宣告されて、ようやく断酒しました。受診の必要性の説明やアプローチについての話の中で、「誰のニーズになるのか・・・」という部分が、印象に残りました。今後の支援の中でも「誰のニーズに・・・」も踏まえながら対応していければと思います。
- ・アルコール依存症の方の支援を行っています。講師の先生が「飲んだら命が短くなるよ」と、いっても飲みますと言われましたがその通りでした。今後の支援方法への勉強になりました。ありがとうございました。
- ・こんなに沢山の資料を出して、どうなるんだろうと心配しましたが、とても分かりやすいお話しで、

非常に有益な研修会でした。話し方も語りかけるような調子で、聞き取りやすかったです(近年、講師が早口でしゃべられるため聞き取れない・理解困難ということが増えている)。

- ・訪問先でアルコール依存症の患者さんや家族と関わる機会が増えていますが、基本的な知識の確認や、知識のアップデートが必要だと改めて思いました。依存症のある患者さんへの関わり方は難しく感じてしまうのですが、「本人や家族のニーズに沿って行なっていく」のアドバイスで 今までの関わりで良かったのだと確認できました。分かりやすく教えて下さる先生(相談先)があると 県央地区でも安心して訪問看護ができます。ありがとうございます!
- ・依存症対応で大事なことは、生きづらさに着目し解消方法を一緒に考えることだと学びました。その為にも専門機関へ繋げる事が大事だと思います。アプローチ方法も具体的に教えて頂き、ありがとうございました。
- ・痒いとこに、手が届く、明快なお話して、あっと言う間の90分でした。
- ・依存症の心理が理解できる機会となった。悪循環から抜け出すための肯定的なコミュニケーションスキルを用いて、今後関わるかもしれない依存症の利用者の方へ接していき、少しでも本音や悩み事を打ち明けて頂けるような信頼関係を築き、ストレスなど軽減できるように寄り添っていきたいと思った。また、アルコール依存症の方や家族の方に、根気強く丁寧に説明し、専門医療につなげていけたらと思います。
- ・高齢者・認知になってからのアルコール問題対策ではなく、それ以前に早期発見・早期対応が重要だと理解できました。
- ・実際、現場で遭遇するアルコール依存の高齢者に対する治療は、癌でいうとステージIVからの治療と言われ衝撃を受けた。家族や知人に、依存症傾向の人がいるので、その人達には、研修の内容を伝え、節酒して欲しいと思った。高齢者のアルコール依存については、本人・家族にニーズがなくても、地域からの苦情というかたちで、問題化することが多く、地域にどう納得してもらうかが、依然として課題だと感じた。
- ・福田先生のような専門医が諫早市内にいらっしゃる事、また講義が聞けて大変有難く勉強になりました。今日のお話で、若い世代からでも周りの知人で、もし依存症の危険信号があれば気をつけた方がいいよと一言言います!
- ・福田先生の講話もとても分かりやすく医療従事者として参考になる内容でした。ありがとうございました。

- ・現在の利用者にアルコール依存症の方はおりませんが、前の職場ではそのような方が利用されてきました。対応に困る事は少なかったですが、今後アルコール依存症の方利用される時の参考になると思います。
- ・とても苦勞するアルコール問題ですが、病気をを知る事で支援の形が見えてきました。
- ・アルコール関連で支援に関わった事は、まだないのですが、身近な問題である事。早めに専門機関への相談が必要ながよくわかりました。大変興味深いお話でした。ありがとうございました。
- ・アルコール依存症や対応について学べて良かった。
- ・アルコールが、麻薬などよりも怖い物だと、初めて知りました。アルコール依存症と考えられる利用者様への対応で、受診は絶対いかないと、本人ご家族が言われていて、ご家族へノンアルコールを飲んでいただいと話をさせていただいた方もおられます。ご家族が、焼酎の一升瓶に水を半分入れておられる方もいました。諫早に、アルコール依存症の相談ができる先生がおられ、とてもラッキーだと感じました。ありがとうございました。
- ・飲酒はたしなむ程度がいいと思いました。
- ・今日は、有り難うございました。今回の研修で、一つ知識(繋ぎ先も含め)が増えました。
- ・飲酒は日常生活においてなくてはならないものになっていることが、非常に多くなっていると思います。アルコール依存症にならないようにいかに付き合っていくか難しいと思いました。なってしまったからでは、他の薬物よりも離脱が難しいことがよくわかりました。今回の研修を踏まえた上で今後の支援に繋げていけたらと思います。

8. 今後、在宅医療・介護関係者研修会ではどのようなテーマ(内容)を希望されますか

- ・透析について
- ・高齢者に起こりやすい疾患とその対応の仕方などを教えて頂きたいです。
- ・ユマニチュードについて。福田先生もいわれてましたが、認知症の分類の必要性については別として、介入については共通するところは多く、認知症ケアの手技にはユマニチュードは大いに活用でき効果があると思います。
- ・アルコール依存症の方の支援には、悩むことが多いので、機会があればまたお願いしたいです。
- ・パーキンソン病の方への支援方法
- ・介護現場でのリスクマネジメント
- ・精神疾患等について等
- ・認知症疾患の方への家族支援についてお願いします。
※母親が認知症なのですが、息子さんが母親の認知症に理解示さないことで頭を悩ませているケアマネがいます。
- ・親の介護、子の介護
- ・攻撃的な被害妄想がある認知症高齢者への対応の行い方
- ・在宅介護の限界点を上げるのに必要な支援
- ・看取りについて話しがききたい
- ・薬物(眠剤、安定剤など)乱用で起こりうるリスク
- ・同じように身近で困っている話題を取り上げてほしいです。
- ・身寄りのない方の医療支援、在宅支援における困りごと

- ・精神疾患(うつ、統合失調症)、認知症(いろんな分類)、大人の発達障害などに関する内容など。
- ・色々の分野の専門家の研修が多いですが、家族の話を聞いてみたいです。仕事の中に聞いてはいますが、家族の素朴な話を聞きたいです。
- ・透析関連 病院・施設・送迎の社会資源
- ・看取りの事例
- ・家族支援の研修会
- ・最近特に看取りやターミナル期の方の支援を行なうことが非常に多くなってきています。年齢や性別も様々です。介入している職種によって言葉のかけ方や対応の仕方も異なってくると思います。特に若い方への言葉がけは非常に悩みます。支援者としてどういう言葉がけが適当なのか悩むことが多々ありますので、ターミナル期における対応の仕方、言葉のかけ方などの研修があるとスキルアップにつながると思います。ぜひそのような研修をお願いできたらと思います。宜しくお願い致します。